

病院の実力「眼科」

医療機関別2015年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	硝子体手術の件数	白内障の手術件数	緑内障の手術件数	内障膜剥離への強膜	小児分野の専門外来設置は○
愛知					
藤田保健衛生大	1316	2059	73	61	
眼科杉田	1016	4999	216	65	○
地・中京	816	1490	225	16	○
名古屋大	718	990	96	72	○
総合上飯田第一	576	761	46	21	
豊橋市民	303	828	37	52	
総合大推進会	272	1214	62	17	○
名古屋第二赤十字	204	1295	5	3	
愛知医大	194	1227	36	21	
国・名古屋医療セ	145	667	29	15	
豊田厚生	78	638	4	10	
公立陶生	69	617	6	3	
安城更生	56	569	3	1	
大同	50	550	1	0	
刈谷豊田総合	46	489	18	0	
名古屋市立東部医療セ	39	492	4	3	
中部労災	22	315	0	0	
春日井市民	9	268	13	0	
名古屋第一赤十字	8	348	0	0	
一宮市立市民	1	223	0	0	
豊川市民	0	460	0	0	
小牧市民	0	400	0	0	
岡崎市民	0	330	1	0	
八千代	0	315	0	0	
名城	0	179	2	0	
岐阜					
岐阜大	554	503	272	0	
岐阜赤十字	210	1017	80	6	
県総合医療セ	145	680	13	0	
県立多治見	68	408	0	0	
岐阜市民	53	472	0	0	
松波総合	23	413	1	0	
大垣徳洲会	17	254	0	0	
平野総合	10	293	0	0	
久美濃厚生	3	128	0	0	
白川	0	192	0	0	
西美濃厚生	0	162	0	0	○
三重					
三重大	356	821	115	13	○
伊勢赤十字	202	964	13	7	
岡波総合	137	364	1	5	
鈴鹿厚生	105	715	31	3	
紀南	18	186	0	0	
岐阜市羽津医療セ	0	160	0	0	

「セ」はセンター。「国・」は独立行政法人国立病院機構。「地・」は地域医療機能推進機構。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は5月1日「補聴器」の予定です。

病院の実力

～三重編 98

一覧表には、「硝子体手術」「白内障の手術」「内障膜剥離術」の2015年の各実施件数と、「小児分野の専門外来設置の有無」を掲載した。

今回は眼科の治療を特集する。

一覧表には、「硝子体手術」「白内障の手術」「内障膜剥離術」の2015年の各実施件数と、「小児分野の専門外来設置の有無」を掲載した。

白内障手術 日帰りでも

網膜がはがれ失明に至る。眼球を覆う膜の上からシリコーンスリーブを押しつけ、網膜をくっつける手術が行われる。

小児分野の専門外来では、眼鏡をかけても視力が改善しない弱視や、虫目の位置がずれている斜視などを診ている。

子どもと大人とは病気の種類や診察の仕方も異なるため、小児眼科も設置している。斜視や弱視が子どもの主な病気で、小児眼科の専門医によって、手術や視力を上げる訓練などを施して改善させていく。

眼科は異常に複雑で、手術や視力を上げる訓練などを施して改善させていく。

眼科

白内障は、目の中でレンズの役割を果たす水晶体が、老化などに伴い濁ってくる。水晶を取り除き、人工の眼内レンズに置き換える手術が必要で、日帰りでも広く行われている。

眼圧は内側から外側に圧力

(眼圧)がかかっているが、この眼圧が高まり視神経が傷ついて、視野が徐々に狭まるのが白内障だ。早期には眼圧を下げる点眼薬が中心だが、効果が十分でない場合、眼圧上昇の進行を止める手術が行わる。

網膜剥離は、目の奥にある

網膜は知らないうちに視野が欠けるが、ほとんど気づかず、まずは点眼薬で治療するが、悪化した場合は手術を行なう。

白内障手術などで行なう硝

け、器具を入れて血を取り除く。難しい治療とされ、設備やスタッフの技量が重要な要素である。



三重大病院 眼科
近藤峰生教授 50

日本人の失明原因の1位は眼圧で、2位は糖尿病網膜症だ。いずれも初期にはあまり自覚症状がないため、受診が遅れるなどと進行しているケースが多い。

糖尿病網膜症は、糖尿病の3大合併症の一つ。糖尿病と診断した時点での内科医と相談して血糖を整えることが予防につながる。眼科に最低でも年1、2回は通うのが望ましい。適切な時期にレーザー治療をすれば悪化を防げる

が、進行したら手術が必要になる。

子供手術は難しい手術だが、当院にはこの手術の専門医が5人おり、最新の顕微鏡や医療機器を整備し、高い実績を誇っている。白内障や網膜剥離なども最新の設備により適切な治療を行うことができ

見え方に違和感 まず受診

日本人の失明原因の1位は眼圧で、2位は糖尿病網膜症だ。いずれも初期にはあまり自覚症状がないため、受診が遅れるなどと進行しているケースが多い。

糖尿病網膜症は、糖尿病の3大合併症の一つ。糖尿病と診断した時点での内科医と相談して血糖を整えることが予防につながる。眼科に最低でも年1、2回は通うのが望ましい。適切な時期にレーザー治療をすれば悪化を防げるが、進行したら手術が必要になる。

糖尿病網膜症などで行なう硝